

神奈川県金融経済概況（2015年10月）

I. 概況

神奈川県の景気は、緩やかに回復している。

すなわち、企業部門をみると、生産は足もと減少している。輸出は持ち直しつつあり、設備投資は増加している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は全体として緩やかに改善している中で、個人消費は底堅く推移している。この間、住宅投資は改善しているほか、公共投資は増加している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 生産： 足もと減少している。

- ・ 輸送機械は、北米向けが好調なものの、新興国向けトラックや国内向け乗用車が低調に推移するなど、足もとでは減少している。
- ・ 素材関連は、化粧品が持ち直しているものの、鋼材や石油製品で原料市況の先安観が広まっていることもあって弱めの動きとなっており、全体としては足もと減少している。
- ・ 電気機械は、情報通信関係の設備投資需要が減少しているほか、電子部品・デバイスなどで汎用品を中心に外需の弱まりがみられており、減少が続いている。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、外需向け建機などで一部弱めの動きがみられるほか、半導体等製造装置や工作機械の伸びが一服していることから、減少している。

(2) 輸出： 持ち直しつつある。

- ・ アジア向けなどに弱めの動きがみられるものの、北米向けやヨーロッパ向けを中心に増加しており、全体として持ち直しつつある。

(3) 設備投資： 増加している。

- ・ 9月短観における、15年度の設備投資計画は、新興国経済の不透明感の強まりなどから一部投資を見送る動きがみられるものの、製造・非製造業ともに業容拡大を企図した増投資や新拠点・新店舗の設置が計画されており、全産業ベースでは大幅な増加が見込まれている。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体として緩やかに改善している。

- ・ 8月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.11倍と、前月の水準（1.12倍）からほぼ横ばいとなった一方、7月の現金給与総額は前年比+3.7%となった。

(5) 個人消費： 底堅く推移している。

- ・ 百貨店売上高は、高額品や食料品販売が好調で、全体としては堅調に推移している。
- ・ スーパー売上高は、食料品を中心として堅調に推移している。
- ・ 家電販売額は、4Kテレビや高機能家電を中心に底堅く推移している。
- ・ 新車登録台数は、一部の新型車投入効果などは持続しているものの、軽自動車の集中的販促活動の反動等の影響が残っており、全体としては持ち直しが遅れている。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、ホテル・旅館の稼働状況をみると、一部にまだ弱い動きも残るが、多くの地域で堅調に推移している。

(6) 住宅投資： 改善している。

- ・ 着工ベースで見ると、貸家は増加基調が持続しているほか、持家、分譲マンションなども振れを伴いつつも増加がみられており、改善している。

(7) 公共投資： 増加している。

- ・ 15/8月の公共工事請負額は、前年を上回っている。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、中小企業向けに拡がりが見られるほか、不動産・住宅関連向けの伸びが続いており、引き続き増加している（貸出金末残前年比：7月+1.4%→8月+1.5%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利：7月1.369%→8月1.362%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金は、高いウエイトを占める個人預金で安定した伸びが持続しているほか、法人預金も伸びていることから、引き続き増加している（実質預金末残前年比：7月+3.3%→8月+2.9%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。